

## 数学科の学習方法

### 1 授業について

#### (1) 準備物を忘れない。

仕事に必要な物を持たずして仕事はかどる、なんてことはありません。教科書・ノート・筆記用具・数学演習・道具（コンパス・三角定規など）等、学習前の準備を整えておきましょう。

#### (2) ノートを工夫する。

50分の授業で、何につまずいて何をつかんだか、学習の跡を残しましょう。手と目と耳を同時に使う“書く作業”は、脳を刺激します。分かったつもりになってぼ〜っと授業を受けるだけでは脳は休憩してしまいます。それに、黒板に書いてあることはもちろん、書いてなくても先生が発する言葉の中にこそ“数学のつぼ”があります。そこを瞬時にメモしておく、ポイントがはっきりしますよ。色ペンを使い、「ここ大事!」のような自作のコメントを加えることもおすすめです。

#### (3) 提出物・宿題の期限を守る。

あなたが日本語をしゃべれるのは、小さいときから繰り返し繰り返し何度も日本語を聞き、使い続けているからです。同じように、数学のコツをつかむためには、繰り返し学習が大事です。そう！提出物・宿題は、繰り返し学習なのです。そして提出期限を守ることは、自分が意識して繰り返し学習をすることになるのです。

### 2 家庭学習について

#### (1) 習ったことは、その日のうちに再確認する。

人は、忘却する生き物です。覚えたつもり・わかったつもりでいても、時間が経つと忘れるのは当たり前。忘れないようにするには、繰り返したたき込んでおくしかないので。今日の授業の習いたては、ほやほや問題を、覚えているうちに自主勉強ノートにやりなおしてみよう。一度解き終わった問題です。授業では50分かかった問題でも、家でなら15分もあれば十分できます。時間をうまく作って、“今日の授業の復習タイム”を習慣化しよう。

#### (2) 毎日欠かさず解き続ける。

数学の授業は、1週間毎日あるわけではありません。「授業がなかったから復習しない。」では、記憶は何日分も退化します。毎日数問は必ず解くことです。解く問題数が多ければ多いほど良いのはもちろんですが、最低でも5問とか10問とか自分で決めて、絶対に毎日続けるのです。教科書の問題でも、数学演習の問題でも、自分が持っている問題集でもいいのです。ただし、完全にマスターした解きやすい問題ばかり形式的に解いても、ほとんど今以上の効果は得られませんね。「解ける」「分かる」問題を増やしていきましょう。

### (3) 手と目と口と耳を使う。

学校では“手と目と耳を使う書く作業”をしますが、授業中ぶつぶつ声を出して解くわけにはいきません。でも、家なら遠慮はいりません。同じ書く作業でも、目で見ても手で書いて口に出して耳で聞きながら、しっかり書きまくりましょう。短時間で集中して効率的に自分の力にするためには、これらの機能の同時進行が重要です。

## 3 テスト対策について

### (1) ノートと教科書をチェックし直す。

自分がどこでつまづいたか、授業ノートに残した間違い直しやチェックの跡を見て、そこを重点的に取り組めば弱点克服できます。また、ノートに書いてあることを見れば、あのときの先生のつぶやきやそのときの授業の記憶を呼び覚ますこともできます。そして最低でもひと通りは教科書の問題を解き直しましょう。

### (2) 数学演習や提出課題をやり直す。

基本的な問題ならひと通りこなしましょう。以前間違えていた問題は、覚え込まずまで見て書いて声に出しながらその声を自分で聞きながら、がぁ〜っとたたき込むのです。

### (3) 自分で予想問題を作成してみる。

先生になったつもりでテストを作ってみましょう。といっても問題自体を作るのではなく、教科書や数学演習、プリント等の中の問題から選んで、1枚のテストを作ってみるのです。そして解いてみましょう。

いつもは狭い内容の中で取り組んでいたものが、ある程度の範囲全体を見渡すことで、学習内容のつながりや関連のさせ方がつかめます。ある部分の学習がどの領域の中のどの部分に位置づけられるかが分かると、これまで悩んだりぼんやりしか理解できなかったことでも、すっきり納得できたりするものです。

## 4 おわりに

たし算・ひき算・かけ算・わり算さえできれば、数学なんて誰でもできる。いいや、そんな簡単ではないと思うあなた。あなたが引っかかっているのは“数学”じゃなくて、何を問われているのかという“日本語”です。これは日常の生活である程度まで高められます。どういうことかという、《①いつものしゃべりを正しい文章でしゃべる。②生活記録の文章をきっちり整える。》ことができるようにするのは、日常会話が単語や短縮語ばかりで、文章に慣れ親しんでいないから、文章で問われると、何を聞かれているのか、ポイントが分からないのです。なんていうことはありません。あなたが文章でしゃべる練習を積みばいいのです。単語や一言のみで返事したり、相手の理解力に頼りきるのはやめましょう。思ったことや考えを正しい文章で伝えることを心掛ける。まずは最も基本からきっちり積み重ねましょう。あえて時間を割くこともない、簡単なことなのです。そして、毎日のちょっとした努力をプラスすれば、もやもやがすっきりと晴れていくことでしょ。